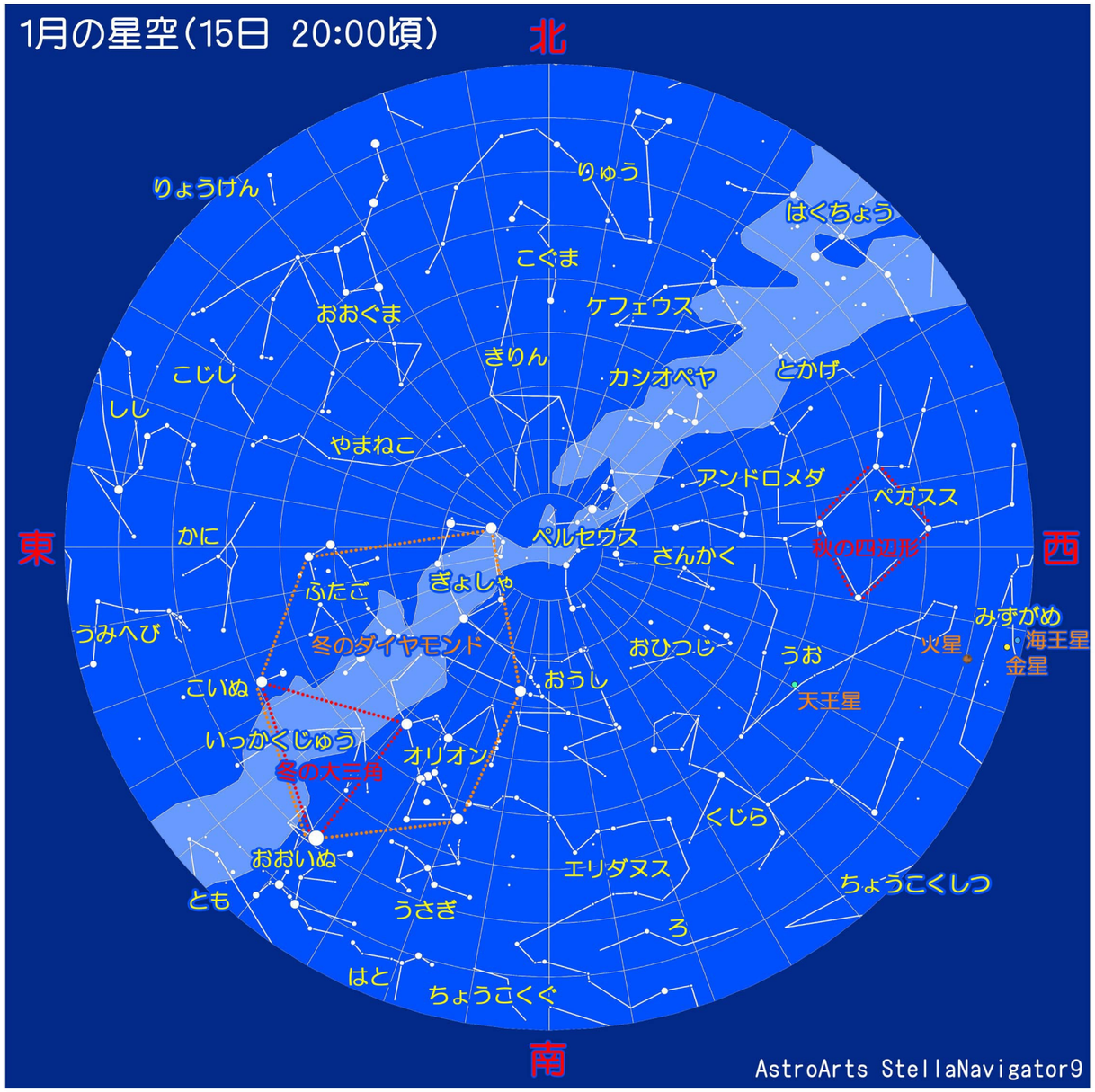
銀河の森天文台
2017年1月のみどころ天体情報



今月のイチオシ！

☆M42（散光星雲）

オリオン座の三ツ星の下、小三ツ星と呼ばれる部分の中央にあるのがM42（オリオン大星雲）です。

15cm双眼鏡では鳥が羽を広げたような形の全体像を、また、りくり望遠鏡では、生まれたばかりの星が四角く並び、その周りを星雲が取り巻く様子を見ることができます。双眼鏡・望遠鏡どちらでも美しい姿を楽しむことのできる、冬を代表する天体のひとつです。

M42

月

		出	没
6日	◐上弦	11:21	--:--
12日	○満月	16:05	06:13
20日	◑下弦	--:--	11:03
28日	●新月	06:33	16:53

天文台から月を見ることができるのは6～14日頃、望遠鏡での見頃は上弦前後です。

距離：約38万km

金星

宵の明星として日没後の西の空に明るく見えている金星が、12日に東方最大離隔を迎えます。肉眼でもはっきりと見える金星ですが、望遠鏡では半月状に欠けた様子を観察できます。

太陽からの距離：約1億800万km

M1（超新星残骸）

おうし座にある星雲で、かに星雲と呼ばれています。これは1054年に出現した超新星の残骸で、このときの超新星爆発は、日本でも「明月記」のなかに記録が残っています。

距離：約7200光年

M35（散開星団）

ふたご座のお兄さんの足元に位置する、明るく大きな散開星団です。約500個の星からなり、15cm双眼鏡では、微光星が密集した見事な姿を見ることが出来ます。

距離：約2850光年

M37（散開星団）

ぎょしゃ座にある明るい3つの散開星団のひとつで、その中でも星の密集度が高く、非常に見ごたえのある星団です。りくり望遠鏡では、視野一面に星々広がる様子を見ることができます。

距離：約4400光年

アルマク（重星）

色違いの重星としては、はくちょう座のアルビレオが有名ですが、アンドロメダ座のアルマクも美しさではこちらも負けていません。青とオレンジ色の星が寄り添う姿がとても綺麗です。

距離：約394光年

ベテルギウス（恒星）

オリオン座の右肩で赤く輝く1等星でそろそろ超新星爆発を起こすのではないかと考えられています。

しかし星の寿命は非常に長いため、超新星爆発が起きるのは1万年以内のいつかと考えられています。

距離：約642光年

ちょっとマニア
・トラペジウム

トラペジウムとは通常M42の中心部にある台形状に並んだ4個の星たちのことを指します。しかし実際にはもっと多くの星があり、条件が良ければ6個以上の星を確認することが出来ます。

距離：約1400光年

その他おすすめ

- M45（散開星団）
- M76（惑星状星雲）
- NGC1514（惑星状星雲）
- NGC1535（惑星状星雲）
- NGC2392（惑星状星雲）
- リゲル（恒星）
- カストル（重星）

1・2月の銀河の森天文台カレンダー

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

開館時間
14:00～22:30
（4月～9月）
13:00～21:30
（10月～3月）

休館日